

# *ELYTRA*

The Journal of  
Japanese Society of Coleopterology



Vol. 5 No. 1  
(July 1977)

日本鞘翅目学会



## 投 稿 規 定

1. 日本鞘翅目学会々員は会誌 ELYTRA に投稿できる。
2. 投稿内容は甲虫に関連したものに限る。
3. 投稿の掲載可否および掲載時期については編集局の合議による。
4. 原稿分量は、原則として1号1篇あたり刷上がり16頁までとし、それ以上のものは2回以上に分ける。
5. 和文の原稿は横書き、原則として現代かなづかいを用いる。
6. 原著に関しては欧文表題を付すこと。
7. 欧文の原稿には和文表題を付すこと。
8. 原著には Summary (要約) を付すことが望ましい。
9. ELYTRA に掲載される原著論文は、本会の審査委員会による審査を受け、受理されたものでなければならない。
10. 印刷代著者負担の原稿は、上記審査委員会で受理されれば、指定の号に掲載することができ、また、ページ数の制限をうけない。  
(主に和文の原稿: 1 ページにつき ¥ 5,500, 主に英文の原稿: 1 ページにつき ¥ 7,500)
11. 和文の原稿では、種名は和名を主とし、学名は必要最小限にとどめる。
12. 新種および日本未記録種の記載については、必ず標本写真(原記載の場合は holotype に限る)あるいは写真に代わりうる図を付し、それらから種の特徴が判別不可能な場合には、別に図版でもってこれを補うことが望ましい。
13. 動植物の学名は、*Necydalis major* LINNÉ のように命名者は全記すること。ただし、同文中で重複する場合は省略してかまわない。
14. 文献は本文の終わりに一括して記すことが望ましい。雑誌名および巻号は省略体でよい。  
(例) Ent. Rev. Japan 19, p.5~34, 1967
15. 活字の指定および校正は編集局に一任されたい。ただし、原著に関しては、初校は著者校正とする。
16. 別刷は原著に限って作成(50部以上)し、50部までは実費の半額を当会が負担、それ以上は著者の全額負担とする。(送料著者負担)
17. 掲載済の原稿は返却しない。ただし、原図・写真は希望があれば返却する。
18. 原稿の送付先は、当分の間、下記宛とする。

〒110 東京都台東区台東2-29-6 藤田 宏方, 日本鞘翅目学会編集局

### 〔投稿に関する注意事項〕

- a. 和文は「～である」調を用いる。ただし、会話文はこれに当てはまらない。
- b. 欧文原稿は1行60字内外にタイプする。
- c. 未記録種の投稿に際しては、それが未記録であると考えた理由を明記することが望ましい。
- d. 分類の紛らわしい種の記録を行なう場合は標本写真を付すことが望ましい。なお、本会誌に用いるための標本写真撮影は当会にも行なうので、希望者は事務局宛に連絡されたい。(1号につき4点までは無料、それ以上は実費を請求する。)
- e. 写真および図版は出来上り予定寸法の1.5倍程度に製作するとよい。
- f. 採集データ(和文)は次のように略記すればよい。  
5 6 6 1 早, 群馬県武尊山, 16. VII. 1970, 衣笠恵士採集
- g. 原稿は編集局により一部変更されることがあるが、変更箇所が内容及び場合によってはあらかじめ著者の了解を求める。また、不備な原稿は書き直しを要求することもある。
- h. 原著論文の著者校正において、校正中の追加・変更は一切認めないので、完全原稿を旨とすること。



# 台湾産食糞コガネムシ解説〔4〕

益 本 仁 雄

A Revision of the Coprophagid-beetles from Formosa [4]

By Kimio MASUMOTO

(Received Feb. 24, 1977; Accepted Mar. 10, 1977)

台湾産食糞コガネムシ解説も第4回となり, Aphodiinae にはいる。

6(5) 頭部は大きく強く下向きだがコブはない。頬は大きい。中後脛節は横隆起を欠き、時に中脛節に痕跡状に残る。

## Aphodiinae マグソコガネ亜科

本亜科は Sacabaeinae と並んで一大亜科を形成している。台湾のこのグループの記録, カタログとしてまとめたものとしてはやはり三輪の A Systematic Catalogue of Formosan Coleoptera 1931 と三輪・中条の Catalogue Coleopterorum Japonicorum (Scarabaeidae) 1939 が戦前のものの代表として掲げられる。

近くは野村による Notes on the Coprophagous Lamellicornia from Taiwan 1973がある。

従来から述べているように、戦前の記録の中には、何らかの理由で、台湾地区以外の標本が混入していると考えられるので注意を要する。

なお野村 1973 以降若干の新種、新記録が追加される。

### 台湾産 Aphodiinae の検索

1(2) 前胸背および上翅に縦の隆条を具える。後頭部に横または縦の隆起～毛のたばを具える。前脛節外歯は1～2で大きい。ふつう小楯板を欠く。

#### Rhyparini

2(1) 前胸背には縦の隆条を具えず、あってもせいぜい横の隆起、後頭部は単純か、時に3隆起。前脛節は3外歯。

3(4) 頭部は顆粒を装い、前頭界線上に隆起なし。前胸背は幅広い横溝が数条ある。後付節は三角に広がる。後脛節端刺は広がるか、または先端が切断状。

#### Psammobiini

4(3) 頭部は滑らかか点刻され、稀に顆粒を装う。前胸背は単純か、時に弱い横位のくぼみを具える。後付節は三角に広がらず、後脛節端刺は細く先がとがる。

5(6) 頭部はあまり大きくなく、多くは単に傾斜し、しばしばコブを具え、頬は小さく水平。中後脛節は横隆起を具える。

#### Aphodiini

#### Eupariini

	Cat.Col.Jap. 1939 MiWA et CHUJO	Notes on the Copr. Lam. from TAIWAN. 1973 NOMURA
Aphodiinae		
Aphodiini		
<i>Aphodius</i>	20	12
<i>Oxyomus</i>	1	1
Eupariini		
<i>Saprosites</i>	1	3
<i>Dialytes</i>		1
Psammobiini		
<i>Ataenius</i>		1
<i>Psammobius</i>	1	3
<i>Rhyssomodes</i>	1	
<i>Pleurophorus</i>		1
<i>Rhyssom</i>		2
<i>Trichiorhyssemus</i>	1	2
Rhyparini		
<i>Rhyparus</i>	3	2

(注) 三輪・中条1939と野村1973の記録が、同数であっても、必ずしも同一種を記録しているとは限らない。

## 1. Aphodiini

本族から次の2属が記録されている。

### 台湾産 Aphodiini の検索

1(2) 上翅は点刻を含む条溝を具え、その条溝は両側に常に短縮される。間室は平坦か、軽く膨隆するが、時として屋根状～稜状。

#### *Aphodius* ILL.

2(1) 上翅は細い隆条を具え、両側でも基部に達する。間室は低く圧せられ、横長の大きな点刻を有する。

#### *Oxyomus* STEPHENS

1-1. *Aphodius* マグソコガネ属

他の多くのグループが、台湾という限られた地域にもかかわらず、日本全土に分布する種類数を上まわることもめずらしくないが、この *Aphodius* 類についていうと、台湾は日本にくら意外に分布の種類数が少なかったというのが実感である。

本属は多数の種を含んでいるので、通常亜属に分けて取扱う。まず台湾に確実に分布する種に関する亜属の分類を掲げる。

台湾産 *Aphodius* の亜属の検索

- 1(2) 小楯板は大形で上翅の長さの $1/3 \sim 1/2$ ぐらいに達する。  
*Diapterna* HORN
- 2(1) 小楯板は小さい ( $1/8 \sim 1/10$ )。
- 3(6) 上翅の間室は高く隆起し稜状。
- 4(5) 前胸背基部にふちどりなし。中後脛節端刺毛は不等長。  
*Pleuraphodius* A. SCHM.
- 5(4) 前胸背基部にふちどりあり、中後脛節端刺毛は等長。  
*Carinaulus* TES.
- 6(3) 間室は単純。
- 7(8) 頬は葉状に突出し大きい。 *Loboparius* A. SCHM.
- 8(7) 頬はそれほど大きくない。
- 9(10) 上翅間室は特に翅端前で膨隆し、互いに合着しない。  
*Pharaphodius* REITT.
- 10(9) 上翅間室は後方で合着する。
- 11(24) 中後脛節の端刺毛は不等長。
- 12(13) 小楯板は前方両側が多少なりとも平行。前胸背の基部はふちどられる。 *Phalacrothothus* MOTSCH.
- 13(12) 小楯板は基部付近の両側は平行でない。
- 14(15) 頭は大きく半円状。頭部に隆起なし。  
*Acrossus* MULS.
- 15(14) 頭部はそれほど大きくない。
- 16(21) 上翅は明らかに毛を装う。
- 17(18) 上翅は長く直立した毛を装う。前頭界線は細い溝状、コブはない。 *Aganocrossus* REITT.
- 18(17) 上翅は直立した毛を装わない。
- 19(20) 上面は全体に毛を装う。前胸背両側にはぶくまるまり、後角は切断状。♂の前脛節は特異な形状。  
*Balthasarianus* PAUL.
- 20(19) 上面は前胸背および上翅の周辺部に毛を装う。♂の前脛節は正常。 *Trichaphodius* A. SCHM.
- 21(16) 上翅は無毛または翅端付近に微毛を装うのみ。
- 22(23) 上面は黒で強い光沢あり。前頭界線は細い溝状。頬は眼よりあきらかに突出する。 *Paulianellus* BALTH.
- 23(22) 上翅は淡褐色で黒色斑を有す。頭部にコブはない。  
*Calaphodius* REITT.
- 24(11) 中後脛節端刺毛は等長。
- 25(26) 前胸背の基部はふちどられないか、あっても外縁にきわめて細い。 *Nialus* MULS.
- 26(25) 基部はあきらかにふちどられる。  
*Calamosternus* MOTSCH.

多少わかりにくい点もあろうが以上の検索にて、亜属のめやすをつけておき、以下の解説の参考にされたい。

1) Subgenus *Diapterna* HORN, 1887

*A. (Diapt.) troitzkyi* JACOBSON

マルツヤマグソコガネ (Pl. 1 Fig. 1)

体長5~5.5mm。黒色で光沢が強く、太短かく、背面が強く膨隆する種である。体格の点で後述の *A. (Lobopa.) kotoensis* MIWA にやや似ているが、本種ははるかに大型で光沢が強く、小楯板がきわめて大きい(亜属の特長)ので容易に判別がつくであろう。

本邦産(奈良県下・神奈川県相模大山)の標本と比較すると、台湾産の個体は一般に大きく、肩部付近は点刻を散布している(邦産のものは平滑)ことなど若干の相違が見られるようであるが大差はない。

台湾では山地の牛・山羊糞で採集された。

採集記録: 霧社(10月), 幼獅(12月), 松崗(4~5月), 梅峰(4月)

2) Subgenus *Pleuraphodius* A. SCHMIDT, 1913

*A. (Pleura.) lewisi* WATERHOUSE

コスジマグソコガネ (Pl. 1 Fig. 2)

体長3~4mm。赤褐~濃褐色で光沢は鈍く、長形。頭胸背は単純であるが、上翅の条溝の両側は細い隆線で縁取られ、また間室は高く稜状に隆起する(亜属の特長)

邦産の個体(九州阿蘇産)にくらべ頭楯が前方に狭まりながら突出しているように見えるが、個体差の範囲かもしれない。

採集記録: 霧社(5, 8月), 墾丁(6月), Liyutan(8月); 嘉義, 大甬林, 台南(三輪)

3) Subgenus *Carinaulus* TESAR, 1945

*A. (Carinau.) pucholti* BALTHASAR

フッケンマグソコガネ\*

体長4.5mm。背面は強く膨隆。頭部はめだつ隆起を具えない。頭胸背は弱い、上翅は強い光沢がある。頭部

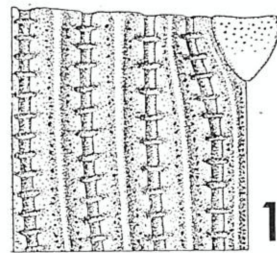


図1 *Aphodius (Carinaulus) pucholti* BALTH. の上翅(部分)  
(BALTHASAR, 1963より)

は明るい赤褐色、前頭背は暗赤褐色、上翅は黒褐色。上翅の条溝の点刻は横長で間室を侵す(図1)

本種は BALTHASAR が福建より記載したが、野村(1973)により台湾からも記録された。

採集記録: 奮起湖(4月)



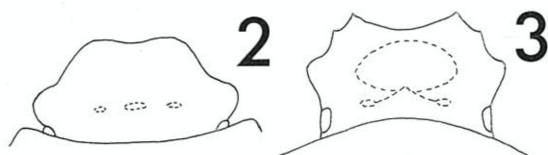


図2 *Aphodius (Loboparius) globulus* HAROLD

図3 *A. (Lobo.) kotoensis* MIWA

4) Subgenus *Loboparius* A. SCHMIDT, 1913

*A. (Lobopa.) kotoensis* MIWA

コウトウマグソコガネ (Pl. 1 Fig. 3)

体長約4 mm。黒色。卵形で背面は強く突隆する。頭胸背は粗い点刻を散布。頬は突出する (図3)。

牛糞より採集された。

採集記録：墾丁(3, 6月), 知本(10月), 蘭嶼(3, 5月)

本亜属では他に三輪・中条が *A. (Lobopa.) globulus* HAROLD (図2) を記録している。台湾省農業試験場にも標本が1頭保管されているが、ラベルには紅頭嶼、5月, SHIRAKI となっており、おそらく他地域の標本と思われる。ちなみに本種は、中国およびベトナムから記録されているものである。

5) Subgenus *Pharaphodius* REITTER, 1892

*A. (Pharaph.) marginellus* (FABRICIUS)

ウスチャマグソコガネ (Pl. 1 Fig. 4)

体長4.5~8 mm。淡褐色で後頭部、前胸背板面、上翅中央部などは暗色。光沢は鈍い。頭胸背は単純、上翅の条溝は細い。本種はトカラ列島から南方、熱帯地域に広く分布する種である。

牛糞より採集した。

採集記録：墾丁(8月), 六亀(4月), 緑島(7月), 蘭嶼(7, 10月), Liyutan(8月); 大甫林, 台南, 安平, 港口, 甲仙甫, 火烧島(三輪)

本亜属はこの他、三輪・中条(1939)が次の種を記録しているが、分布については疑問がもたれる。

\**A. (Pharaph.) crenatus* HAROLD

クロマグソコガネ

本種はフィリピン、インド、スリランカ、ジャワ等に分布するものであるが、農業試験所には「Ako」のラベルが付いた標本がある。

\**A. (Pharaph.) elongatulus* (FABRICIUS)

クリイロマグソコガネ

中国、インド、スリランカ、北米などから記録されている種である。同試験場には恒春・SHIRAKI の標本がある。

\**A. (Pharaph.) orientalis* HAROLD

ツヤハダマグソコガネ

本種は中国、ベトナム、スンダ列島などからの記録がある。試験場には鳳凰山, SHIRAKI のラベルがつけられた個体があるが、この個体は次種の同定あやまりである。

\**A. (Pharaph.) rugosostriatus* WATERHOUSE

スジマグソコガネ

日本および朝鮮半島などに分布する。試験場にある標本には産地ラベルが付けられていないものと、前記の個体がある。

\**A. (Pharaph.) russatus* ERICHSON

キシマグソコガネ

タイ、インド、アフリカなどの記録がある。試験場の標本は恒春のラベルであった。

6) Subgenus *Acrossus* MULSANT, 1842

*A. (Acro.) formosanus* NOMURA et NAKANE

タカサゴツヤマグソコガネ\* (Pl. 1 Fig. 5)

体長約6.5 mm。黒色で光沢が強い。長卵形で背面はかるく膨隆・頭部はよく発達し半円状。頭胸背は単純で中型の点刻を比較的密に装う。肩部にトゲ状突起の痕跡がある。

邦産の同亜属種 *A. (Acro.) atratus* WATERHOUSE に酷似するが、本種は、上翅条溝内の点刻は同室をほとんど侵さず、また肩歯を有することで容易に区別できる。

採集記録：松崗(4月), 梅峰(4月), 阿里山(6月)

7) Subgenus *Aganocrossus* REITTER, 1895

*A. (Agano.) urostigma* HAROLD

フチケマグソコガネ (Pl. 1 Fig. 6)

本邦をはじめ世界各地に広く分布するものと同一種である。

春~秋期に台湾各地に普通。燈火にも来集する。

8) Subgenus *Balthasarianus* PAULIAN, 1934

*A. (Balth.) babori* BALTHASAR

シセンマグソコガネ\* (Pl. 1 Fig. 7)

体長7~7.5 mm。黒褐色。上面全体に黄色のかなり長い毛を装う。上翅の条溝は後方で前種の様に合着しない。また、前胸背の点刻も次種にくらべ強くなく密でない (図4)。本種は中国から記載されたが、野村(1973)により台湾から記録された。

採集記録：南山溪(6, 8月), 霧社(4~5月, 10月), 廬山(5月), 奮起湖(5月)



図4 *A. (Balth.) babori* BALTH. の前肢 (BALTHASAR, 1963より)



A. (*Balth.*) *pilifer* PAULIAN

ベトナムマグソコガネ

体長 7 mm。黒～暗褐色で光沢あり。上面はかなり長い明色の毛を装う。上翅の条溝は会合部のものを除き翅端前で第 2 は第 3 と、第 4 は第 5 と、第 6 は第 7 と、第 8 は第 9 と合着する。本種は北ベトナムから記載されたが、野村 (1673) により台湾からも記録された。

採集記録：南山溪 (7～8 月)，台東 (6 月)

本亜属は以上の 2 種の他に、三輪・中条 (1939) がフィリピン、インド、ジャワなどに分布する A. (*Balth.*) *sinuatus* HAROLD チャイロマグソコガネを記録しているが、試験場で検した標本は埔里および恒春のラベルがついた A. (*Balth.*) *eccoptus*=*pilosus* にほかならない。また、三輪 (1931) に掲げられていた A. (*Balth.*) *pilosus* HAROLD ケブカマグソコガネに相当する標本も試験場で検したが、これは明らかに A. (*Balth.*) *babori* BALTHASAR であった。

9) Subgenus *Trichapodius* A. SCHMIDT, 1913

A. (*Trichaph.*) *reichei* HAROLD

ライヘマグソコガネ (Pl. 1 Fig. 8)

体長 4～5.5 mm。黄褐色で後頭、前胸背中央部、上翅は暗色。上翅後方に暗黒褐色とそれに接する黄褐色の波状帯紋を有す。上翅後方および側方には黄色の短毛を装う。

牛糞より採集された。

採集記録：霧社 (4～5 月)，墾丁 (5 月)；甲仙甫，Chikutôki (三輪)

上記の他に三輪・中条 (1939) は 2 種記録している。

\*A. (*Trichaph.*) *costatulus* A. SCHMIDT

ヒメスジマグソコガネ

インドから書かれたものであるが、試験場の標本中には六亀，SHIRAKI のラベルがつけられている。

\*A. (*Trichaph.*) *segmentaroides* A. SCHMIDT

ウスモンマグソコガネ

インド，ラオス，ベトナムの記録があるが、同試験場では紅頭嶼のラベルの標本がある。

これら 2 つの標本を見た限りでは、同一種を別種として同定しているようであるし、いずれも台湾産とは信じがたい。

10) Subgenus *Paulianellus* BALTHASAR, 1938

A. (*Paul.*) *maderi* BALTHASAR

コツヤマグソコガネ (Pl. 1 Fig. 9)

体長 5～6 mm。黒色で光沢が強く無毛。前胸背両側，上翅などはいくぶん明色 (濃赤褐色)。

本種は BALTHASAR が四川 (中国) から記載したものであるが、中根が奈良から記載した A. (*Acrossus*) *asahinai* を本種の Synonym としている。台湾産と本邦産 (奈良) の個体を比較してみると、色彩の点では本邦産は一般に明色、光沢が強く、体形的には、小楯板がいくぶん細長く、また後脛節端刺はより長く後付節第 2 節中央に達するほか、上翅条溝内の点刻は小さいなど、若干の相違が見られる。

本種は牛糞より得られた。

採集記録：霧社 (4～5，8，12 月)，幼獅 (12 月)，松崗 (3 月)，奮起湖 (3 月)

11) Subgenus *Calaphodius* REITTER, 1892

A. (*Calaph.*) *moestus* FABRICIUS

キペリマグソコガネ

本種は東洋区およびエチオピア区に広く分布する。三輪・中条 (1939) のカタログに掲げられており、試験場にも標本がある。ラベルには Ako, SHIRAKI と記されていて、その裏面には Colombo という文字がある。

しかしながら、中根 (1961) なども台湾を分布地として記録しているので標本の確認は行なっていないが、ここで少しふれることにする。

体長 5～7 mm。淡褐色。頭、前胸背板面、小楯板、上翅条溝と第 4，第 6 間室の縦紋は黒い。頭部は前方が淡色、小点刻を密布、中央でコブ状に隆起し前方は圧せられ、前縁は切断状で弱く湾入し両側はまるまる。両頬はわずかに眼より突出。前胸背は両側は淡色で中央に暗色紋を有し、やや強い点刻を散布。♂では上翅より幅広く、中央にやや粗い点刻をまばらに具え、♀では上翅より狭く後方に拡がる。上翅の条溝は鋭く刻まれ、条溝内の点刻は密で間室をほとんど侵さない。間室は平坦。後付節第一節は脛節上端刺より長く、第 2～4 節の合計長とはほぼ同長。

香港，マライ，インド，アフガニスタン，スリランカ，アラビア，アフリカ，マダガスカルなどのほか、琉球および台湾の記録がある。

分布記録：港口，Akau，Suisharyô (三輪)

12) Subgenus *Phalacrothothus* MOTSCHULSKY, 1859

A. (*Phalacro.*) *avunculus* BALTHASAR

ニセマメマグソコガネ\* (Pl. 1 Fig. 10)

体長 3.5 mm。褐色。頭部の前方，前胸背両側は黄褐色。上半部はわずかに光沢あり。上翅は黄赤色で光沢なく、両側と翅端はきわめて短い毛を装う。

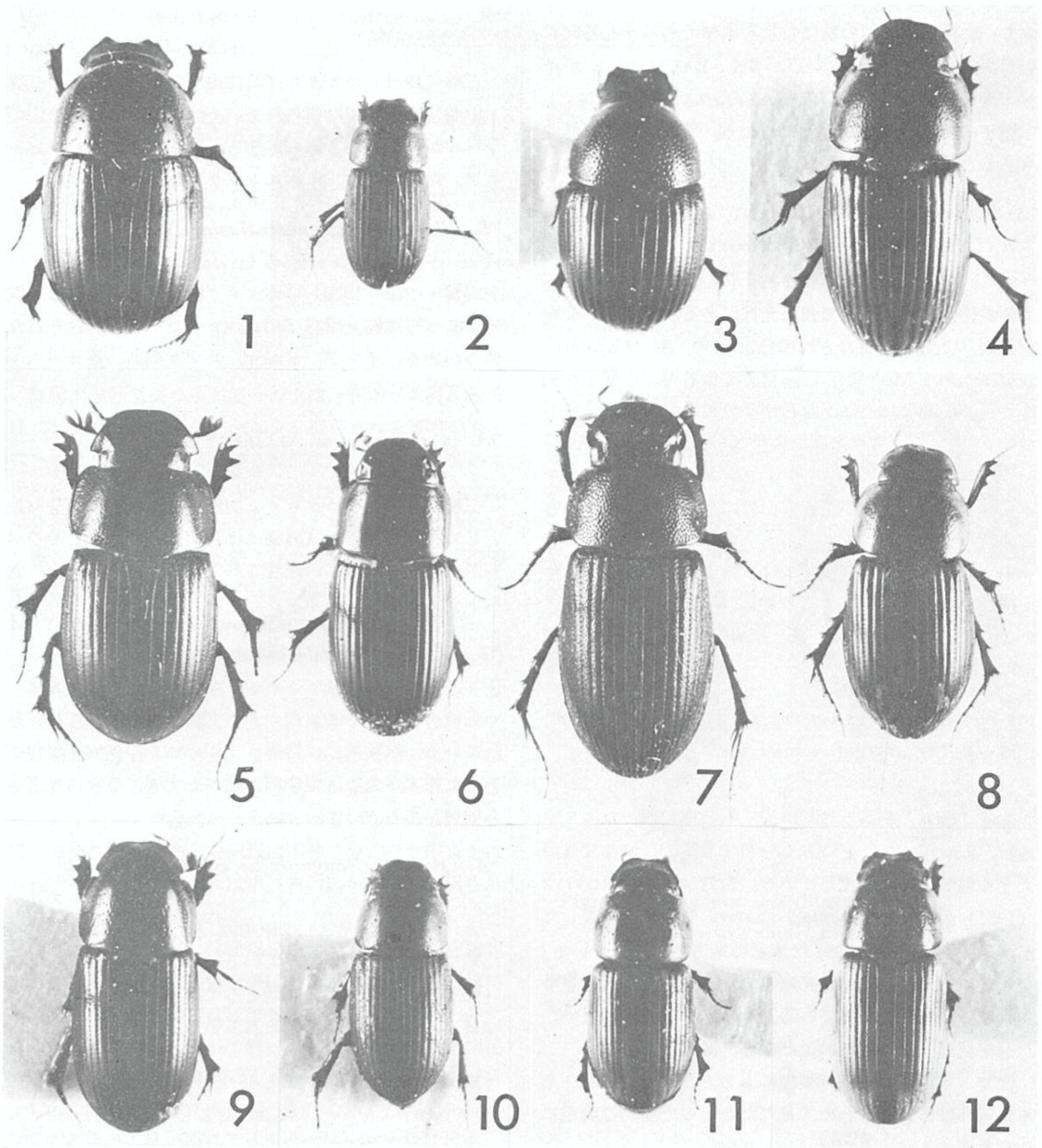
本種はインドから記載されたものである。

採集記録：墾丁 (7 月)

本亜属は三輪・中条 (1939) が A. (*Phalacro.*) *carinu-*



Plate 1



(H. MATSUKA Photo.)

Explanation of Plate 1

- |  |   |
|--|---|
| 1. <i>A. (Diapt.) troitzkyi</i> JACOBSON         | 2. <i>A. (Pleur.) lewisi</i> WATERHOUSE         |
| 3. <i>A. (Lobopa.) kotoensis</i> MIWA            | 4. <i>A. (Pharaph.) marginellus</i> (FABRICIUS) |
| 5. <i>A. (Acro.) formosanus</i> NOMURA et NAKANE | 6. <i>A. (Agano.) urostigma</i> HAROLD          |
| 7. <i>A. (Balth.) babori</i> BALTHASAR           | 8. <i>A. (Trichaph.) reichi</i> HAROLD          |
| 9. <i>A. (Paul.) maderi</i> BALTHASAR            | 10. <i>A. (Phalacro.) avunculus</i> BALTHASAR   |
| 11. <i>A. (Nialus) insularis</i> PETROVITZ       | 12. <i>A. (Calamo.) sublimbatus</i> MOTSCHULSKY |



*latus* MOTSCHULSKY マメマグソコガネを記録している。この種は中国、スリランカ、インドなどに分布しており、台湾の同亜属の種はむしろ本種であろうと考えていたが、記載と合致しない点が多く、BALTHASAR がインドから発表した *A. (Ph.) avunculus* を当てておく。

墾丁で得た個体はいずれでもなく、新種である可能性もあることをつけ加えておく。

13) Subgenus *Nialus* MULSANT, 1870

*A. (Nialus) insularis* PETROVITZ (New record)

ナンヨウスイロマグソコガネ\* (Pl. 1 Fig. 11)

体長約 4 mm。黄色で強い光沢がある。後頭部、前胸背板面、上翅会合部などは暗色。次の *A. (Calamo.) sublimbatus* MOTSCH. に一見よく似るが、小型で太短かく、前胸背前縁部はかならず明色なので容易に区別がつく。(亜属の区別点を確かめればいっそう確実である)

PETROVITZ (1961) がセイロンおよびフィリピンから記載したが、今般の調査で台湾にも分布していることをあきらかにする。

牛糞より得られた。墾丁では次種より多い。

採集記録：南山溪 (4, 6月), 墾丁 (1, 5月)

なお、三輪 (1931) の *A. lividus* (OLIVIER) の記録は次種と考える。

14) Subgenus *Calamosternus* MOTSCHULSKY, 1859

*A. (Calamo.) sublimbatus* MOTSCHULSKY

ウスイロマグソコガネ (Pl. 1 Fig. 12)

本種は日本、朝鮮半島、中国、中国東北部、ウスリー地域、東シベリアなどに広く分布する種で、個体変異が大きく地域的にも変化している。台湾から PETROVITZ (1961) が、*A. (Calamo.) sauteri* なる種を発表したが、BALTHASAR (1963) は本種の地方型と考えている。たしかに台湾産の個体は邦産のそれに比べ、色彩等多少異なった特長をもっているものもあるが大差はない。

採集記録：台湾各地および緑島、蘭嶼

なお、本亜属は前胸背後縁にふちどりを有するが、あっても外縁にありきわめて目立たないので亜属の判定に注意を要する。

次の種は標本を検しなかったが確実な記録がある。

*A. (Calamo.) uniplagiatus* WATERHOUSE

オビマグソコガネ

日本および朝鮮半島に分布する種である。上翅に長三角の紋があるので容易に識別できる。

中根 (1960) に記録がある。

以上述べてきた種以外にいくつかの記録が残されている。いずれも分布には疑問が残るがそれらについてふれ

ておく。

\**A. (Teuchestes) sorex* (FABRICIUS)

オオキバネマグソコガネ

三輪 (1931) のカタログでは掲げられているが、三輪・中条 (1939) では削られている。試験場には阿里山のラベルが付いている標本がある。中国、インド、アビシニア、南アフリカ、オーストラリアなどに分布する。

\**A. (Paramoecius) australasiae* BOHEMAN

コクロマグソコガネ

三輪・中条 (1939) のカタログに掲げられている。試験場には紅頭嶼、恒春 SHIRAKI のラベルが付けられた個体がある。インド、ビルマ、スンダ列島、東オーストラリアなどに分布。

\**A. (s.str.) elegans* ALLIBERT

オオフタホシマグソコガネ

三輪 (1931) のカタログと加藤の図鑑に台湾を分布地として掲げてある。試験場には台南、SHIRAKI のラベルが付けられた標本が保管されている。日本、中国、北ベトナムなどに分布する。

\**A. (s.str.) chinensis* HAROLD

シナマグソコガネ

三輪・中条 (1939) のカタログに分布地として掲げられている。試験場には恒春、SHIRAKI のラベルが付けられた標本がある。南中国、北ベトナム、ラオスなどから記録がある。

\**A. (Bodilus) languidulus* A. SCHMIDT

キバネマグソコガネ

*A. obsoletus* WATERHOUSE として、三輪 (1931) では埔里を産地として掲げている。もちろん三輪・中条 (1939) にも台湾が分布地として掲げられている。本種は日本、中国などから知られている。

\**A. (Bodilus) sordidus* (FABRICIUS)

ヨツボシマグソコガネ

本種はヨーロッパからアジア地区、日本に至るまで広く分布している種である。試験場の標本中に台北のラベルが付されている個体が見い出された。

(次回最終回)



# 硫黄島から採集された2種のコメツキムシ

大 平 仁 夫

Two Elaterid-species Collected from Iwo I. in Micronesia (Coleoptera: Elateridae)

By Hitoo ÔHIRA

(Received Feb. 21, 1977; Accepted Mar. 10, 1977)

静岡大学理学部の草間慶一博士は、1976年7月に硫黄島において2種のコメツキムシを採集されて筆者のもとにとどけられた。筆者の知る範囲では、硫黄島を含めてこの硫黄諸島から本科の種の記録はないし、2種共に海洋分布性の興味ある種なので、ここに紹介しておきたいと思う。ここに標本を提供された草間博士、種々御援助をいただいた高桑正敏氏に心から御礼申し上げる。

## 1. *Conoderus pallipes* ESCHSCHOLTZ, 1829

ナンヨウチビコメツキ (Fig. 1, B)

本種はポリネシアからメラネシア地域にかけて広く分布する熱帯海洋性の種で、ミクロネシア地域ではマリアナ諸島まで分布している。また、ニューギニアからは記録されているが、オーストラリアからは知られていない。フィリピンや台湾からも知られていない。したがって、今度の硫黄島からの記録は本種の分布の北限にあたるわけであるが、いずれは小笠原諸島からも見出されるのではないと思われる。

体長は9~12mm。体は黒褐色でやや扁平状。前胸背板の後縁角の周辺、触角と脚は褐色または黄褐色。触角の第2、3節は短小でほぼ等長、これら2節を合わせたものは第4節よりはるかに短い。脚の第4付節の末端部の下側は強く膜状に伸展する。本種はチビコメツキ亜科 (Conoderinae) に所属し、成虫は VAN ZWALUWEN-BURG (1957) や ÔHIRA (1971) にも図示されている。

調査標本：1♂3♀♀, 硫黄島, 22. vii. 1976,

草間慶一採集

## 2. *Lacon modestus* (BOISDUVAL, 1835)

ネッタイサビコメツキ (Figs. 1, A; Fig. 2)

本種は熱帯の諸島に広く分布している種で、東はハワイ諸島から南はオーストラリア、西へはスマトラ島をへてスリランカ島、さらにマダガスカル島あたりまで知

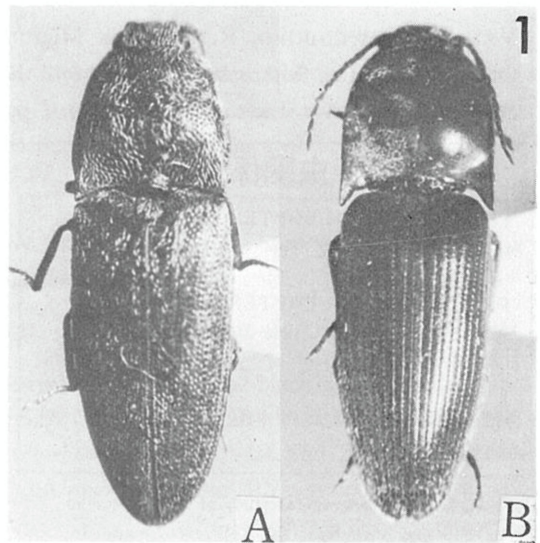


Fig. 1 A: *Lacon modestus* (BOISDUVAL, 1835)

B: *Conoderus pallipes* ESCHSCHOLTZ, 1829

られているが、内陸部ではビルマをへてラオス、ベトナムあたりまでが北限で、フィリピンには産するが台湾からは記録がなく、太平洋ではミクロネシア地域のマリアナ諸島が分布の北限である。

本種は体長10~12mm。体は黒褐色 (チョコレート色) で、背面の所々に淡黄色の鱗状毛を生じ不規則な斑紋を生ずる。触角と脚は暗褐色である。前胸腹板溝は前脚基節腔

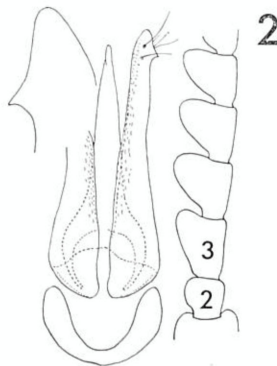


Fig. 2 Aedeagus and some basal segments of antenna of *Lacon modestus*.

Present address: Aichi University of Education, Kariya, Aichi (〒448)

の近くまで深い溝を作り、前胸腹側板と後胸腹板にはそれぞれの付節を受入れるための浅い凹溝を形成する。本種は、STEBBING(1914)によると、チークの木(*Tectona grandis*)の辺材の中に作られた蛹室から成虫を採集したとしているが、詳しい生態は不明である。また、成虫については VAN ZWALUWENBURG(1957)に図示され

ているし、交尾器の形態については BINAGHI(1941)によってビルマ産のが示されている。また、本種はサビコメツキ亜科(*Chalcolepidiinae*)に所属する種である。

調査標本: 3 ♂ 2 ♀ ♀, 硫黄島, 24~27. vii. 1976.

草間慶一採集

### Summary

On July of 1976 Dr. K. KUSAMA, Shizuoka University, collected two kinds of the elaterid-beetles from Iwo I. in Micronesia, viz. *Conoderus pallipes* ESCHESCHOLTZ, 1829 and *Lacon modestus* (BOISDUVAL, 1835), which are newly recorded from this I.

### 引用文献

- BINAGHI, G. : Revisione dei Tipi di E. Candèze delle Collezioni del Museo di Genova (Col. Elateridae). Boll. Soc. Ent. Ital., LXXIII(8), pp. 118-123, 1941.  
 VAN ZWALUWENBURG, R. H. : Ins. Micronesia, Coleoptera: Elateridae, 16(1), pp. 1-66, 1957.  
 ÔHIRA, H. : Ins. Micronesia, Coleoptera: Elateridae (Supplement), 16(7), pp. 295-300, 1971.  
 STEBBING, E. P. : Indian Forest Insects, pp. 224-231 (part of Elateridae), 1914.

## T T S の甲虫関係国内図書

### "FRAGMENTA COLEOPTEROLOGICA"

No.1-21 (1961-8) = B5, 86pp. set ¥2,100 (¥320).  
 @ ¥ 100 (¥120).

### "FRAGMENTA COLEOPTEROLOGICA JAPONICA"

No.1-4. (1964-5) = B5, 16pp.  
 日本甲虫小説 set ¥ 400 (¥120).  
 @ ¥ 100 (¥120).

両誌共中根先生編集発行の甲虫専門誌で、今ならコンプリートに揃います。

Hayashi, M. A Monographic Study of the Lepturine Genus *Pidonia*, with Special Reference to the Ecological Distribution and Phylogenetical Relation. Part 1-4. (1968-72). = A5, 211pp. 29pls. 9text figs.  
 "ハナカミキリ属のモノグラフ(1)-(4)"

(注文コード Re-009) ¥2,500 (¥360).

Hayashi, M. 5 papers on Cerambycidae of S.E. Asia. (1966-74). = A5, 132pp. 8pls.

"林先生東南アジアのカミキリ別刷集"

(Re-010) ¥1,500 (¥360).

Nomura, S. 4 papers on Scarabaeidae (On the Genus *Serica* from Japan -1972 On the *Sericini* of Japan 1 & 2-1973 & 1976; On the *Sericini* of Taiwan -1974-) B5 132pp. 18pls. 14 text figs.

"ピロウドコガ系族に関する別刷集"

(Re-006) ¥2,500 (¥360).

ご注文はハガキに署名・捺印の上お申し越し下さい。代金は図書到着後5日以内に(18才以下は保護者と連名で。)

お近くの方は小社(小田急経堂駅前)へ!

昆虫関係図書常時 500 タイトル以上在庫

水曜定休・平日10~19時・日曜祭日13時~17時

JCBカード加盟店 在庫リスト(¥100)

Kurosawa, Y., T. Nakane & M. Sato Check-List of Coleoptera of Japan. Ser.1.-1976-

No.1 Lucanidae; No.2 Passalidae; No.3 Cicindelidae;  
 No.4 Nydrochidae; No.5 Georiddidae; No.6 Psephenidae &  
 No.7 Limnichidae.

日本産甲虫目録 第1集 (No.1~7) 7冊セット(CJ-s01)  
 ¥ 800 (¥120).

甲虫談話会編集・発行の目録で、各属の模式種、各種の原記載文献、模式産地、国内分布が記されています。発行部数が少ない出版物ですので発行の都度お求め下さい。

### "NIPONIUS" - Acta Coleopterologica, adita a

Dr. M. Chujo. vol. 1 (1959-1962). = A5, 116pp.

No. 1 ¥ 70.	No. 2 ¥ 140.	No. 3 ¥ 200.	No. 4 ¥ 200.
No. 5 ¥ 50.	No. 6 ¥ 520.	No. 7 ¥ 80.	No. 8 ¥ 70.
No. 9 ¥ 50.	No. 10 ¥ 80.	No. 11 ¥ 50.	No. 12 ¥ 50.
No. 13 ¥ 180.	No. 14 ¥ 120.	No. 15 ¥ 140.	No. 16 ¥ 100.
No. 17 ¥ 140.	No. 18 ¥ 70.	No. 19 ¥ 120.	No. 20 ¥ 70.
Index ¥ 70.			

vol. 2 (1963-8). = A5, 75pp.

No. 1 ¥ 50.	No. 2 ¥ 200.	No. 3 ¥ 120.	No. 4 ¥ 70.
No. 5 ¥ 200.	No. 6 ¥ 70.	No. 7 ¥ 100.	No. 8 ¥ 180.
No. 10 ¥ 70.	No. 11 ¥ 240.	No. 12 ¥ 80.	No. 13 ¥ 70.

中条先生編集発行の甲虫専門誌です。Fragwenta 同様毎号重要論文が掲載されています。

松本むしの会 長野県のカミキリムシ B5, 212pp. 2colour.  
 ¥1,500 (¥400).

昆虫洋書・地方図書は専門の小社へ

## 東京通販サービス社

〒156 東京・千歳郵便局私書箱 3 3 号

小田急経堂ビル12F 1221号

☎ (03)426-6012 郵便振替 東京0-73,156



## A New Species of the Genus *Glipa* LECONTE from the Ryukyu Islands (Mordellidae)

By Masatoshi TAKAKUWA

琉球産オビハナノミ属の1新種

高 桑 正 敏

(Received Mar. 10, 1977; Accepted Mar. 10, 1977)

**Abstract.** *Glipa iriei* sp. nov. (Coleoptera, Mordellidae) is described on the basis of 26 specimens (14 males and 12 females) collected in the Yaeyama group of the Ryukyus. This new species can be readily recognized on its characteristic maculation, truncated apex of pygidium, peculiar genitalic features, and so on.

*Glipa iriei* sp. nov. (Figs. 1, 2)

(Japanese name: Irie-obi-hananomi)

*Glipa* sp.: TAKAKUWA, M., 1976, ELYTRA, 3(1/2), p. 16, pl. 3, figs. 2, 2a

Male. Body black; mouth-parts (except for mandibles which are blackish), maxillary palpi and front femora (except for dark apical parts) yellowish brown; spurs of middle tibiae and all claws rufous; spurs of hind tibiae rufo-fuscous; antennae as follows: 1st and 2nd segments dark castaneous, though more or less brownish at base and apex; 3rd and 4th segments flavo-piceous; 5th to last segments dark castaneous, gradually becoming darker towards apex.

Head densely clothed with long golden-yellow pubescence, except for vertex and base which are rather sparsely clothed with fulvous hairs. Pronotum clothed with flavous or fulvous ones, except for basal three spots consisting of dark fuscous pubescence, of which the central one is usually obscure. Scutellum entirely clothed with whitish or pale-yellow pubescence. Elytra clothed with dark fuscous pubescence, each bearing maculations of whitish or yellowish pubescence as follows: basal maculation by pale-yellow pubescence forms an indented crescent-shape, the pubescence becoming brown at the humeral corner; pre-median one by whitish or very pale-yellow pubescence forms an anchor-shape, joining the basal macu-

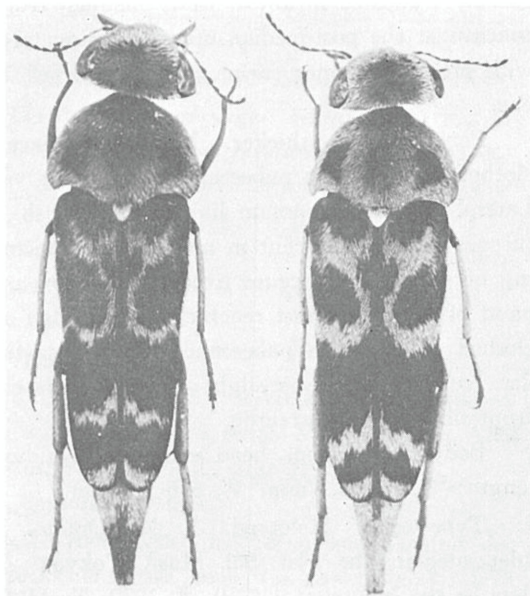


Fig. 1 *Glipa iriei* sp. nov.  
(left: ♂ (holotype), right: ♀)

Present address:

3577 Mutsuura-chō, Kanazawa-ku, Yokohama-city 236

lation at its median part (see figure); posterior oblique and waved band formed by whitish or very pale-yellow pubescence, not reaching lateral margin; oblique band just before apex formed by whitish or very pale-yellow pubescence and not reaching apical margin. Pygidium and anal sternite clothed with dark fuscous pubescence, except for the basal half of pygidium and basal one-third of anal sternite, both of which are covered with whitish hairs, and the apical parts of pygidium, which bear yellow pubescence. Ventral surface

excepting anal sternite clothed with whitish pubescence though yellow or brown ones exist on apico-median areas of each sternite. Legs clothed with whitish or yellowish pubescence as follows: front legs with fine yellowish ones; middle legs with yellowish ones, except for whitish ones on basal half of femora; femora and tibiae of hind legs with whitish or pale-yellow ones as a whole, and tarsi with yellowish ones.

Head densely and finely punctate, moderately convex; eyes oval, very densely and finely clothed with yellow hairs; tempora narrow, but outer edge somewhat projecting. Antennae short; 5th to 10th segments feebly serrate and gradually decreasing in length towards apex; 4th nearly equal in length to either one of 1st, 3rd and 10th, a little shorter than 5th; last segment flattened-oval, about 2.7 times as long as wide, a little longer than 5th. Pronotum transverse, about 1.3 times as wide as long, and widest at basal two-fifth; surface densely and finely punctate; hind angles rounded; lateral margins arched in dorsal view, nearly straight in profile. Scutellum right-triangular with apex rounded. Elytra unusually narrow, evidently narrower than pronotum, about 2.2 times as long as wide, and narrowed posteriorly; surface densely and finely punctate; apex separately rounded. Pygidium rather stout, attenuate towards apex, about 0.44 times as long as elytron, and about 1.5 times as long as anal sternite, with dorsal carina at apical half; apex broadly truncated in dorsal view, obliquely truncated in profile. Anal sternite narrowed posteriorly, concave at the post-median area, and sinuately truncated at apex. Front tibiae curved inwards, with prominent inner carina. Inner spur of hind tibia about 2.1-2.3 times as long as outer one.

Female. Body thicker. Mouth-parts excepting mandibles and front femora piceous. Head clothed with whitish pubescence, except for yellow ones on vertex and surroundings of vertex. Lateral areas of pronotum lined with whitish or pale yellow pubescence; central spot by dark fuscous hairs evanescent in most of the specimens examined. Elytral maculations larger, consisting of whitish pubescence except for yellow or brown ones on humeral parts; posterior waved band of elytron almost reaching lateral edge and situated further back than in male. Pygidium clothed with whitish pubescence on whole surface; dorsal carina almost disappearing. Anal sternite flat, truncated nearly straight at apex. Legs clothed with more whitish pubescence than in male; front tibiae nearly straight.

Body length (incl. head and excl. pygidium): ♂. 8.0-10.0 mm, ♀. 9.4-10.7 mm. Elytron length: ♂. 5.2-6.5 mm, ♀. 6.6-7.3 mm.

Type-series. Holotype, ♂, Mt. Omoto, Ishigaki Is., Ryukyus, 2. VI. 1972, H. IRIE leg. (deposited in the Nat. Sci. Mus., Tokyo) Paratypes: Ishigaki Is. (Mt. Omoto: 1♂1♀, same data as the holotype; 1♂, 9. VI. 1972, T. MIZUNUMA leg.; 1♂2♀♀, 21. V. 1973, K. SUGINO & K. AKIYAMA leg.; 2♂♂2♀♀, 18-21. V. 1974, IRIE leg.; 1♀, 8. VI. 1974, TAKAKUWA leg.;

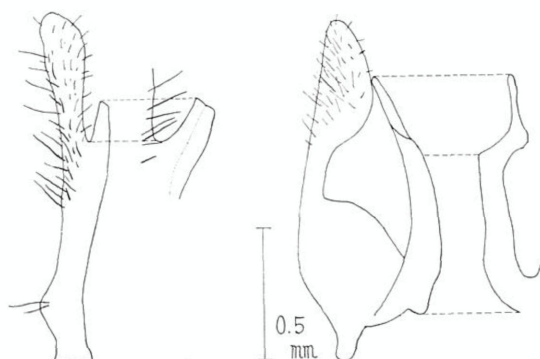


Fig. 2 Male genitalia of *Glipa iriei* sp. nov.



1♂, 13. VI. 1974, T. MIKAGE leg.; 1♂1♀, 26-31. V. 1975, M. FUKAMACHI leg.; 1♂, 13. VI. 1975, S. IMASAKA leg., Arakawa: 1♂, 1. VI. 1973, T. KOBAYASHI leg., Mt. Banna: 1♂, 25. V. 1974, IRIE leg.; 1♀, 28. V. 1974, T. SEINO leg.), Iriomote Is. (Hidori: 2♂♂3♀♀, 3-4. VI. 1974, TAKAKUWA leg., Mt. Sonai: 1♂1♀, 7. VI. 1974, TAKAKUWA leg.)

Distribution. Okinawa Is. (TAKAKUWA, 1976), Ishigaki Is., Iriomote Is. (Okinawa and Yaeyama Islands)

This new species looks like *G. fasciata* KÖNO at first sight because of its maculation, but can be easily distinguished from that species by the following characteristics of maculations: 1) posterior elytral band oblique, 2) elytra with white band near apex, and 3) black spots on pronotum very small, not connected with each other.

### Acknowledgement

The author wishes to express his deep gratitude to Dr. Takehiko NAKANE, Dr. Yoshihiko KUROSAWA, Dr. Shun-ichi UÉNO, Mr. Sizumu NOMURA and Mr. Takeichirō HATAYAMA for their kind help in preparing the manuscript of this paper. Thanks are also due to Messrs. H. IRIE, T. KOBAYASHI, T. SEINO, M. FUKAMACHI and K. AKIYAMA for their kindness in supplying with materials, and to Mr. H. MATSUKA for taking photographs.

### 摘 要

琉球産のハナノミ科オビハナノミ属の1新種 *Glipa iriei* TAKAKUWA, sp. nov. (イリエオビハナノミ) を記載した。この種は、筆者が1976年の ELYTRA 3 巻 1/2 号に *Glipa* sp. としたものと同じものである。

本種は、独特な斑紋ならびに幅広く切断される尾節板などの特徴からみて、これまでに日本近隣においては特に近縁な種は見つかっていない。このことは、図示したように♂ゲンタリアの paramere 右片右枝突出部が長い点からもうかがえる。♂と♀とで相当の形態差が生じている点も *Glipa* 属としては特異である。

### 1951年以降の台湾産カミキリの文献 (1)

草間 慶一

J.L. GRESSITT (1951) の大著 "Longicorn Beetles of China" は Longicornia, Vol. 2 の全巻を用いて発表され、この中にそれまでの台湾と紅頭嶼のカミキリ、463 種と 23 種について種名と文献が集録されている。しかし、その後 120 種以上の新種や新記録種が追加されているので、これらの文献について年を追って紹介してみたい。

#### 1951年

(1) BREUNING, S. "Revision du genre *Phytoecia* MULSANT" Ent. Arb., 2: 1-103, 353-460, 3 Pls.

この総説中で、台湾産としてキクスイカミキリ *P. rufiventris* GAUTIER が入れられている。

(2) HAYASHI, M. "Studies on Cerambycidae from Japan and its adjacent regions (1)" Ent. Rev.

Jap., 5: 75-82

新種 *Strangalomorpha mitonoi* を記載しているほか *Aphrodisium yugaii* KANO (1933) および *Aromia faldermanni insularis* GRESSITT (1936) を *Aphrodisium horishanense* KANO (1933) のシノニム(一型)としている。

\*GRESSITT (1951) は *A. horishanense* を *Schwarzerium semivelutinum* (SCHWARZER) (1925) のシノニムとしている。

#### 1952年

(3) BREUNING, S. "Revision einiger Gattungen aus der Gruppe der Saperdini MULSANT" Ent. Arb. Mus. Frey, 3(1): 107-213, 3 Pls.

Saperdini 族の総説。

(4) HEYROVSKY, L. "Betrag zur Kenntnis der Bockkafer Asiens" Ann. Mus. nat. hung., 2: 71-73  
新種 *Erythrur taiwanicus* の記載。

## Three Unrecorded Longicorn Beetles from Naka-Iwojima Island (Volcano Islands)

By Keiichi KUSAMA<sup>1)</sup> and Shigeo TSUYUKI<sup>2)</sup>

中硫黄島（火山列島）より未記録のカミキリ 3 種について

草間 慶一・露木 繁雄

(Received Feb. 24, 1977; Accepted Mar. 10, 1977)

The authors had a chance to examine the fauna of Naka-Iwojima Island, the Volcano Islands, from 21st to 28th July 1976. During the period, about 30 species of Coleoptera were collected, including 3 species of Cerambycidae, which were all new records from this Island, especially one of them, *Prosopius bankii*, was new record from Japan territory.

A list of Cerambycidae collected from the Island was the following:

1. *Ceresium unicolor unicolor* (FABRICIUS)

21–28, July 1976, common, about 50 specimens were collected from living leaves of *Cocos nucifera* L., *Ficus microcarpa* L. etc. and attracted to light. New record from Iwojima Island.

2. *Sybra pascoei* LAMEERE

26 July 1976, 1ex. New record from Ogasawara Islands.

3. *Prosopius bankii* (FABRICIUS), Pteropliini (Fig. 1)

21–28 July 1976, abundance, more than 80 specimens were collected from dead or half-dead plants, ad. *Melia azedarach* L., *Leucaena glauca* (L.) BENTHAM, *Ricinus communis* L., *Agave americana* L. etc. New record from Japan.

New Japanese name: Murayama-munekobu-sabi-kamikiri

\*This is named in honour of CDR Waro MURAYAMA of commander of Iwojima.

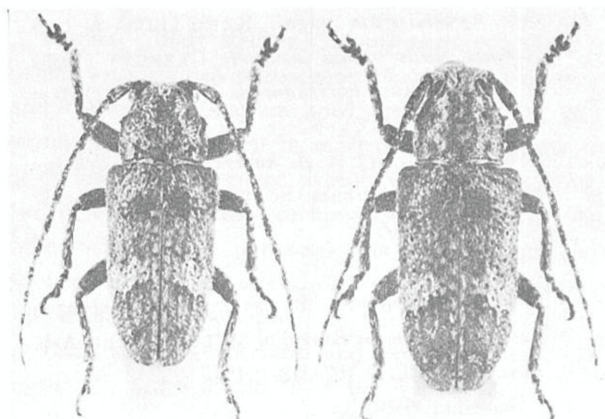


Fig. 1 *Prosopius bankii* (FABRICIUS)  
(Naka-Iwojima Is : Left, ♂; right, ♀)

### Acknowledgements

The authors wish to express their sincere gratitude to Commander Waro MURAYAMA of Commanding Officer of Air Facility Iwojima, Lieutenant Colonel Masaki IZUMI of Japan Air Self-Defence Force and Lieutenant Commander Hidekatsu KOSHIO of Maritime Self-Defence Force for their advice and hospitality. The helpful suggestions and assistances of En-Sign. Yoshio CHIBA and the other officers in Iwojima are also gratefully acknowledged.

Present address: 1) Biological Institute, Faculty of Science, Shizuoka University, Shizuoka-city (〒422)

2) 7-1-24, Zushi, Zushi-city, Kanagawa Pref. (〒249)



# A Study on Thelytokous Parthenogenesis of *Kurarua rhopalopholoides* HAYASHI (Coleoptera, Cerambycidae)

By Tooshi GOH

クビアカモブトホソカミキリの雌性単為生殖についての研究

郷 遠

(Received Feb. 26, 1977; Accepted Mar. 10, 1977)

**Abstract:** The thelytokous parthenogenesis of *Kurarua rhopalopholoides* HAYASHI is reported. This is the first record of the parthenogenesis in the family Cerambycidae (Coleoptera). The eggs laid by virgin female insects was observed to hatch.

## Introduction

The thelytokous parthenogenetic reproduction has been known in some families of Coleoptera, e.g., Chrysomelidae,<sup>1, 2, 3)</sup> Curculionidae,<sup>2, 4-18)</sup> Dermestidae,<sup>2, 19)</sup> Tenebrionidae,<sup>2, 20)</sup> Micromalthidae,<sup>8, 21, 22)</sup> Ptinidae,<sup>7)</sup> and Scolytidae.<sup>23, 24)</sup> However, this phenomenon has not been reported in the family Cerambycidae.

In previous paper, GOH et al.<sup>25, 26)</sup> observed and reported such interesting facts on the reproduction of *Kurarua rhopalopholoides* HAYASHI in the family Cerambycidae, Coleoptera, as follows: (1) No male pupae have been found yet.<sup>26, 27)</sup> (2) The female adults oviposited eggs without copulation. And recently the author confirmed the hatch of larvae by dissecting dead insects. These facts would suggest the possibility of parthenogenetic reproduction in this species. This expectation in mind, the author pursued a rearing examination of *K. rhopalopholoides*.

## Materials and Methods

The branchlets of the host plants (*Ilex rotunda* or *I. pedunculosa*) containing mature larvae under the bark were collected at Mt. Gagyū, Okayama Pref., in 1975. After some period, the presence of pupae in pupal cells in sapwood was observed by peeling off the bark.

The branchlets were cut off in about 7cm long, including the whole pupal cell. Each of them was kept in a plastic cage with a wire netting lid. After the emergence of adult insects, some kinds of flowers (*Spiraea cantoniensis*, *Cornus controversa*, *Viburnum dilatatum*, *Ligustrum japonicum*) were given them as food. In addition to them a piece of dead branchlet of the host plant was also given for their oviposition (Fig. 1).



Fig. 1 Feeding view of the adults in each separate cage.

The branchlets has been collected in late summer season to avoid the intrusion of eggs laid in nature. Shallow cuttings were given by a knife at the bark of the branchlets to make oviposition easier. The cuttings should not reach sapwood, because it had been known in preliminary observations that adults scarcely oviposited in sapwood. The branchlets and the flowers were renewed daily and the rearing cages were exposed to sunlight on fine days.

The branchlets oviposited by the insects were transferred into the other cages and preserved under slightly moist condition.

The hatch of the eggs were observed under a microscope. The eggs obtained from the ovaries of dead or live insects by dissection were used for the same observation. The dissection was done in the air, or in water, or in 0.01% salicylic acid aq. solution. The eggs were kept on moistened paper or absorbent cotton.

### Result

Twelve female insects emerged from the branchlets late in April, 1976. After about a month from the emergence, they begin to oviposit.

The eggs were laid in the cuttings mentioned above in the depth of about 3mm. Three insects did not oviposit, although some eggs were found in their ovaries after death (Table I, Adult No. C, D, and I).

The number of eggs laid by each insect or extracted from its ovary were shown in Table I. Seven or less eggs were laid oviposited by an insect reared separately. On the other hand, more than 9 eggs at least were by an insect reared in pairs.

The eggs hatched during 21 to 36 days after the oviposition (Fig. 2, 3).

The hatching rate was about 60% in the case of eggs laid, while it was 20% in the case of eggs obtained from ovaries by dissection (Fig. 4). In the latter case, the hatching rates varied from 0% to 50% according to the treatment of eggs as shown in Table II. For example, the hatching rate was 50% when the eggs were extracted from ovary in water and kept on moistened cotton.

### Discussion

The virginity of the female insects used for this study was doubtless, because each of them emerged and was kept in a separated cage into which she had been put in pupal condition. Then the eggs laid by these insects or obtained from the ovaries were doubtlessly unfertilized.

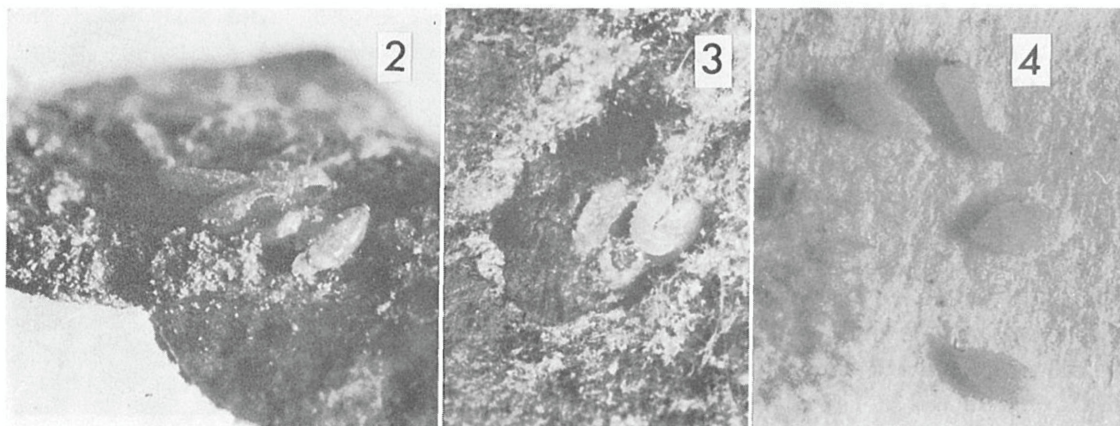


Fig. 2 The larva is hatching from the egg laid.

Fig. 3 The larva hatched from the egg laid.

Fig. 4 The larvae hatched from the eggs obtained from ovaries by dissection.



**Table I.** The number of the eggs obtained from each insect and of hatching eggs

Adult No.	Eggs laid in cuttings		Eggs extracted from ovaries	
	Number of eggs	Number of hatching eggs	Number of eggs	Number of hatching eggs
A	2	0	3	0
B	1	1	5(a)	—
C	0	0	4	0
D	0	0	4	0
E	7—2(b)	5	6	4
F	3	3	6	1
G	1	1	2(c)	0
H	5	2	7	1
I	0	0	8	1
J	6	4	8	3
K	18(d)	10	1	0
L			11	2

(a) Sacrificed for specimen.

(b) Two eggs were damaged during observation.

(c) Extracted from live adult.

(d) K and L were reared together in one cage.

**Table II.** The number of the hatching eggs preserved in various conditions

Extracted in	Preserved on	Number of eggs used	Number of hatching eggs
the air	cotton	2	0
	paper	16	2
water	cotton	14	7
	paper	15	2
salicylic acid soln.	cotton	13	1
	paper	—	—

Nevertheless, the hatch of about 60% of the eggs laid and of about 20% of ones extracted from ovaries were observed. Based on these facts, the thelytokous parthenogenesis of *Kurarua rhopalopholoides* would be confirmed.

The relatively high mortality of the eggs obtained from the ovary would be explained by various reasons, for example their unmaternity, damages through dissection, etc.

In the previous trials, the author failed to obtain wholly matured eggs, because the rearing period of the adult insects was relatively short. It was also confirmed that it took so long period as more than one month after the emergence, for the female insects to begin oviposition.

#### Acknowledgment

The author wishes to acknowledge Dr. Masataka Obika for his kindest help and encouragement in the course of this study.

The author is also much indebted to Dr. Keiichi KUSAMA, for improvement of the manuscript, and to Dr. Takehiko NAKANE, Dr. Yasushi TAKENOUCHI, Dr. Satoru KURATA, Mr. Yasutoshi SHIBATA, for their kind suggestions and assistances. Ample materials were supplied by Messrs. Tamotsu TAMURA, Osamu YAMAJI, Tetsuto WAKEJIMA, to whom the author wishes to express his cordial gratitude for their kindness.

# 摘 要

クビアカモゾトホソカミキリ *Kurarua rhopalopholoides* HAYASHI について、本種の成虫（原記載以来は未知）が、羽化越冬して、蛹室内に留まっている

期間より、一頭ずつ分離して飼育を続け、脱出後、各頭体が単独で産卵した卵の孵化を観察し、また、成虫体の卵巣内より摘出した卵の孵化も確認したことより、本種が、カミキリムシ科として初めての、雌性単為生殖を営む種であることを立証することができた。

## References

- (1) CHEN, S. H. (1935) : Ann. Soc. ent. France 104:127-168
- (2) PAULIAN, R. (1943) : Les Coléoptères., Paris, Payot pp. 85, 124
- (3) VANDEL, A. (1931) : La Parthenogenese., Paris, Doin
- (4) HOFFMANN, A. (1932) : Livre Centenaire., Soc. ent. France 233-243
- (5) HUSTACHE, A. (1923) : Ann. Soc. ent. France 92:6
- (6) MAKINO, S., SAITO, K. (1951) : Saikin-no-Seibutsugaku (Modern Biology) pp. 187-228  
Tokyo, Baifu-kan
- (7) SANDERSON, A. R. (1961) : Proc. Roy. Soc. Edinburgh 67:333-350
- (8) SCOTT, A. C. (1936) : Journ. Morph 59:485-515
- (9) SEILER, J. (1947) : Hereditas 33:425-456
- (10) — (1948) : Chromosoma 3:88-109
- (11) SMITH, S. G. (1960) : Ann. Rev. Ent. 5:69
- (12) Suomalainen, E. (1945) : Sitzungsber., Finn. Akad. Wassensch. 44:181-201
- (13) — (1962) : Ann. Rev. Ent. 7:349-366
- (14) TAKENOUCHI, Y. (1961) : Can. J. Genet. Cytol. 3:237-241
- (15) — (1965) : Can. J. Genet. Cytol. 7:663-687
- (16) — (1966) : Ann. Zool. Jpn. 39:47
- (17) — (1972) : Jpn. J. Genetics 47:19-22
- (18) — (1972) : Insectarium., Proc. Assoc. Zoo. Garden, Jpn. 9:160-164
- (19) MILLIRON, H. E. (1939) : Ann. ent. Soc. America 32:570-574
- (20) FREDERIKSE, A. M. (1924) : Journ. Genetics 14:93-100
- (21) BARBER, H. S. (1913) : Proc. biol. Soc. Washingt. 26:185-190
- (22) — (1913) : Proc. ent. Soc. Washingt. 15:31-38
- (23) KANEKO, T., TAKAGI, K. (1965) : Journ. Appl. ent. Zool. Jpn. 9:303
- (24) TAKENOUCHI, Y., TAKAGI, K. (1967) : Ann. Zool. Jpn. 40:105-110
- (25) GOH, T. (1973) : Gensei., Proc. ent. Assoc. Kochi, Jpn. 25:9-12
- (26) GOH, T., TAMURA, T., WAKEJIMA, T., YAMAJI, O. (1976) : ELYTRA., 4:9-16  
Journ. Col. Soc. Jpn.
- (27) DUFFY, E. A. J. (1953) : Nat. hist. British Museum p. 86



# Description of a Beautiful New Species of Clytini from the Bonin Islands (Cerambycidae)

By Keiichi KUSAMA

小笠原諸島よりの美しいトラカミキリ族の1新種について

草 間 慶 一

(Received Feb. 24, 1977 ; Accepted Mar. 10, 1977)

## *Xylotrechus takakuwai* sp. nov. (Figs. 1, 2)

(Japanese name : Miuro-tora-kamikiri)

Clytus ? sp : FUJITA, H., 1976, Gekkan-Mushi, No. 68, pp.27-31, pl. fig.5

Male—Form moderately, integument black. Head with a very narrow V-shaped frontal carine, and a pair of rather widely separated parallel carinae extending upward vertex (Fig. 2); frons clothed with pale yellow hairs; vertex rather coarsely, shallowly, contiguously punctate, except for narrow basal portion with rather deeper and finer punctation; antennae moderately elongate, surpassing basal 1/4 of elytra, scape longest, ratio of segments as follows—6.4:1.0:5.4:5.0:5.0:4.0:3.8:3.2:3.0:2.6:2.4, scape, 3rd and 4th segments subcylindrical, 5th and following segments rather flattened. Pronotum as wide as long, a little narrower than elytra at base, disk coarsely and shallowly punctured, lateral sides rather rugosely punctate, surface clothed with short thin whitish pubescence, and with sparse long flying hairs, also with 3 pairs of yellow pubescent marks—front fasciae curving from apical margine to underside, middle spots oval, last patches transverse near basal margin. Scutellum covered with yellow pubescence. Elytra nearly 2.4 times as long as basal width, clothed with thin pale pubescence, basal 1/3 reddish brown, each elytron with 3 yellow pubescent marks—oblique oval spot at basal 1/3, transversal triangular band at apical 1/3, and small suboval spot near apex; apices rounded, outer angle spinose minutely. Legs long, slender. Underside; some parts of thoracis sterna and apical margin of abdominal sternites clothed with yellow pubescence.

Length : 11mm. Breadth : 2.7mm.

Holotype—♂, Mt. Chibusa (alt. ca. 400m), Haha-jima I., Bonin Islands, 23 June, 1976, M. TAKAKUWA leg. (holotype is deposited in the National Science Museum of Japan, Tokyo).

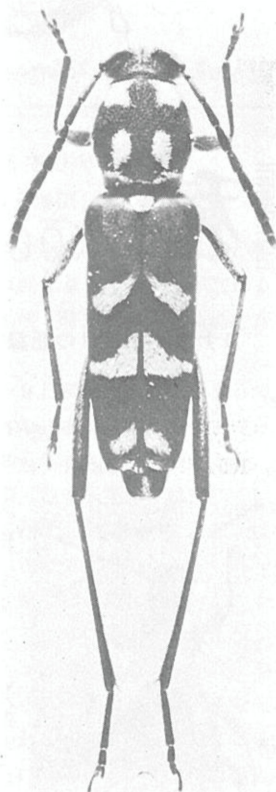


Fig. 1 *Xylotrechus takakuwai* sp. nov. ♂ (Holotype)

As the surface pattern of this new species is quite unique, there are no similar species of *Xylotrechus* in Japan and adjacent regions.

This species name is denominated in honour of Mr. Masatoshi TAKAKUWA who is the collector of the interesting species.

### Acknowledgements

The author is greatly indebted to Mr. Masatoshi TAKAKUWA who kindly gives the opportunity to study the valuable material and also to Mr. Hiroshi FUJITA for the preparation of the photograph accompanying the present paper.

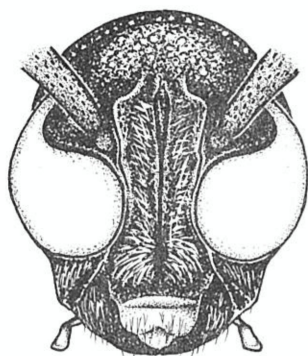


Fig. 2 Frons of *Xylotrechus takakuwai* sp. nov.

### 摘 要

新種 *Xylotrechus takakuwai* (ミイロトラカミキリ) の記載 (Figs. 1, 2)。本種は1976年6月23日、小笠原諸島母島の乳房山山頂(標高約400m)で、高桑正敏氏によって採集された1個が知られているのみである。前胸部に黄色斑、上翅は基部が鮮やかな赤褐色であるのに加えて、3つの黄色斑をもっており、日本およびその近隣からは近縁な種が見当らない。

前頭には、きわめて明瞭な角稜が認められ (Fig. 2), *Xylotrechus* 属に含まれる種である。

## 稿 KŌCHŪ 虫

### コナガキマワリの記録

今坂 正一

コナガキマワリ *Strongylium helopioides* LEWIS は、1894年に G. LEWIS によって長崎産の標本を基に

記載された種であるが、中根猛彦(1972)<sup>1)</sup>によると、その後の採集例は報告されていないようである。

筆者は長崎県雲仙岳において、枯枝(直径3~4 cm)のピーティングで本種を得ているので報告しておく。

1ex., 長崎県島原半島雲仙岳(標高1,200m付近), 15. VI. 1976, 今坂採集



本種は、中根・益本(1969)<sup>2)</sup>のゴミムシダマシのリストではコナガキマワリという和名で、また、原色日本昆虫大図鑑 I, 甲虫篇(1963)ではヒサゴナガキマワリという和名で紹介されている。

体長6.4 mm。暗褐色。触角基部、各足の脛・付節、前胸背前縁は赤みを帯び、頭胸背は密に点刻される。上翅は金銅光沢を有し、点刻列を具え、間室には微細点刻が散布している。大図鑑にも書かれているとおり、本種の外見は、*Misolampidius* (ヒサゴゴミムシダマシ属)の種によく似ている。

1) 中根猛彦(1972): 昆虫と自然, 7(7), p.18

fig. 8 d

2) 中根猛彦・益本仁雄(1969): 昆虫と自然, 4(9)

pp.32~34

(〒855 島原市白土町1064)

### 屋久島のキンオビハナノミの記録

高桑 正敏

キンオビハナノミ *Variimorda flavimana* (MARSEUL) は北海道、本州、四国、九州から記録されている。1976年、田尾美野留氏によって屋久島から本種が採集されたので新産地として報告する。



1 ♀, 屋久島小瀬田, 11. VII. 1976, 田尾採集

奄美大島にはヒメキンオビハナノミ *V. miyarabi* NOMURA を産し, 屋久島産のものはこの種との関係に興味を持たれたが, 本州産などと特に差は見られない。

なお, 九州においては現在まで福岡県下からのみ採集されているようだが, 熊本県祖母山の採集例があるのでここに記しておく。

1 ♀, 熊本県祖母山, 21. VII. 1968, 酒井香採集

以上の標本は筆者が保管している。標本を恵与された酒井・田尾両氏, ならびに北九州のハナノミの資料を恵与された高倉康男氏に厚く感謝申しあげる。

(〒236 横浜市金沢区六浦町 3577)

### ツシマムツボシタマムシ宮城県に産す

田村 隆宏

ツシマムツボシタマムシ *Chrysobothris samurai* OEBENBERGER は対馬から記載され, 近年になって本州(広島県, 岡山県, 福島県いわき市)および九州(大分県飯田高原)から発見されて話題を呼んでいる。筆者は宮城県白石市東白石産の本種を見いだしたので, 日本における北限記録かと思ひ報告する。

1 ♀, 宮城県白石市東白石, 27. VI. 1976. 鈴木採集  
この個体は4紋型の f. *samurai* である。

なお, 黒沢良彦博士は1975年にツシマムツボシタマムシの学名 *C. tsushimae* を, 樺太の *C. samurai* の学名のシノニムとし<sup>1)</sup>, *tsushimae* は6紋型のツシマムツボシタマムシの型名として残している<sup>2)</sup>。

本種の同定に当っては, 藤田宏・秋山黄洋両氏にお願いした。

1) Y. KUROSAWA (1975): Bull. Natn. Sci. Mus.,  
1(1), pp.73~74

2) 黒沢良彦 (1976): 甲虫ニュース, No.33, p.10  
(〒180 武蔵野市吉祥寺本町 2-33-18 とぎわ荘  
丸岡堅二方)

### 白紋のあるヤエヤマフトカミキリ

森島 直哉

沖縄県西表島にて, 上翅に白紋のあるヤエヤマフトカミキリ *Blepephaeus yayeyamai* BREUNING を採集した。本邦からは現在5種の *Blepephaeus* が知られているが, 上翅に斑紋を有するのは, 石垣島特産のインガキフト1種で, ヤエヤマフトに白紋の出る個体があることは今までに知られていなかったことと思われる。

1 ♀, 西表島カンピラの滝, 14. V. 1976.



写真のように上翅の翅端近くに一对の明らかな白紋を備え(b), 目立たないが, 上翅中央よりやや翅端よりの側縁部にも小さな一对の白紋が見られる(a)。また, 翅端部および会合線上の後方1/2にも白色微毛が密生している(c)。

筆者は西表島産のヤエヤマフトはこの1個体のみしか検していないが, 石垣島のものに比べ黄褐色の微毛が多く, 写真の示すよう触角第2~4節

の基部, 中・後脛節の基部の白色微毛は著しく密で発達しており, 翅端の形(*Blepephaeus* 属では同一種でも変化の幅が大きい)も内角はほとんど尖らず, インガキフトのそれに近い。

(〒321-14 日光市花石町1823)

### 三宅島5月上旬のカミキリ

藤田 宏・小笠原 隆

伊豆諸島における甲虫相の調査は, 最近御蔵島が脚光を浴びたことなどから, 以前より多くの人々が訪れるようになったが, まだまだ場所・時期・採集法共に片寄っている傾向にある。

筆者らは1976年5月8~9日にシイの花に集まるカミキリを求め, 三宅島を訪れた。南西諸島の島々では, 3~4月に咲くシイの花に多くのカミキリが集まるが, それらの種の多くは他の時期, 他の採集法では得にくい。伊豆諸島のシイの花にも同様に, 未記録の, あるいは未知のカミキリが集まっているのではないか, という予想のもとに, 大路池畔のシイ原生林を訪れたが, 池の周りのシイはあまりに大木すぎて, 木に登ることさえできないという状態であった。ちょうど, 全島シイの花が満開で, 池の周りを歩いていると, シイの花の香りでむせかえるほどであったにもかかわらず, 1本もすくうことができなかった。皮肉なことに, 海岸線のバス道に面した樹相の貧弱なところにあるシイの花は, 皆容易にネットですくうことができたが, ヒメクロトラが非常に多いほかは, 他のカミキリはまったく見られなかった。

結果的には失敗に終わったが, 大路池周辺のシイ花上には興味深いカミキリがいる可能性は充分にある

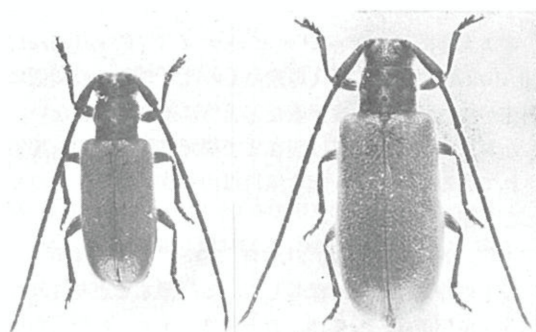
と思えるし、八丈島・御蔵島などでも試みる価値は充分にあると思う。

5月8～9日に採集できたカミキリは次の9種。

1. ヒメクロトラカミキリ  
*Rhaphuma diminuta* (BATES)  
多数、大路池～新沼池、8～9. V
2. ハチジョウウスアヤカミキリ  
*Bumetopia heiana* HAYASHI  
1♀, 角屋敷、8. V; 1♂1♀, 坪田、8. V
3. ワモンサビカミキリ  
*Pterolophia* (*Hylobrotus*) *annulata*  
(CHEVOLAT)  
2♂♂1♀, 角屋敷、8. V
4. アトモンサビカミキリ  
*Pterolophia* (*Pterolophia*) *granulatus*  
(MOTSCHULSKY)  
1♂1♀, 角屋敷、8. V
5. トカラヤハズカミキリ  
*Uraecha gilva hachijoensis* HAYASHI  
2♂♂1♀, 角屋敷、8. V
6. イズニセビロウドカミキリ  
*Acalolepta sejuncta izuinsulana* HAYASHI  
1♀, 角屋敷、8. V
7. クモノスモンサビカミキリ  
*Graphidessa venate* BATES  
14♂♂15♀♀, 大路池～角屋敷、8～9. V
8. ドイカミキリ  
*Doiis divaricatus fulvovariegatus* HAYASHI  
4♂♂11♀♀, 大路池～角屋敷、8. V; 4♂♂2♀♀, 三池、9. V
9. コゲチャサビカミキリ  
*Mimectatina meridiana* (MATSUSHITA)  
2♂♂1♀, 角屋敷、8. V; 1♂1♀, 三池、9. V  
ワモンサビ・アトモンサビ・ドイは著しく汚損しており、越冬個体と思われるものであった。

なお、9日に大路池畔で切りとったカラスザンショウ枯枝よりタイワンメダカカミキリ (27♂♂20♀♀, 19. VII～10. VIII. 1976), ドイカミキリ (6♂♂4♀♀, 5. VIII～7. X. 1976) のほか、目的のキイロアラゲカミキリ *Penthides rufoflavus* (HAYASHI) が羽化した (25♂♂12♀♀, 11. VII～3. X. 1976) が、これは伊豆諸島では御蔵島の1♂に次ぐもので、三宅島初記録種である。

タイワンメダカは6～7月がピークで、その後は少しずつ羽化し、キイロアラゲは7月11日に最初の1♂が羽化した後、7～8月がピークとなり、10月3日に1♀が



キイロアラゲカミキリ 左: ♂ 右: ♀

羽化するまで、84日間も羽化し続けていた。ドイは一番遅く、8月より羽化し、9月上～中旬がピーク、10月まで羽化していた。

この枯枝は、大路池の水面に向かってつき出していた地上より2mくらいの位置にあったもので、根本の直径が4cm弱、長さ3mほどの比較的細いものであった。

(藤田: 〒110 台東区台東2-29-6)

(小笠原: 〒165 中野区東中野5-9-7 脇屋亘方)

#### アカムネハナカミキリの新産地

ならびに成虫の生態に関する知見

松井 正通

アカムネハナカミキリ *Macropidonia ruficollis* PIC は現在まで美ヶ原、日光、入笠山などより記録されているが、いずれの産地でも比較的少ないもののようである。筆者は長野県南佐久郡川上村奥秩父国有林において本種を採集したが、秩父山塊での記録は初めてと思われるので、ここに新産地として報告する。

4♂♂6♀♀, 長野県南佐久郡川上村奥秩父国有林,

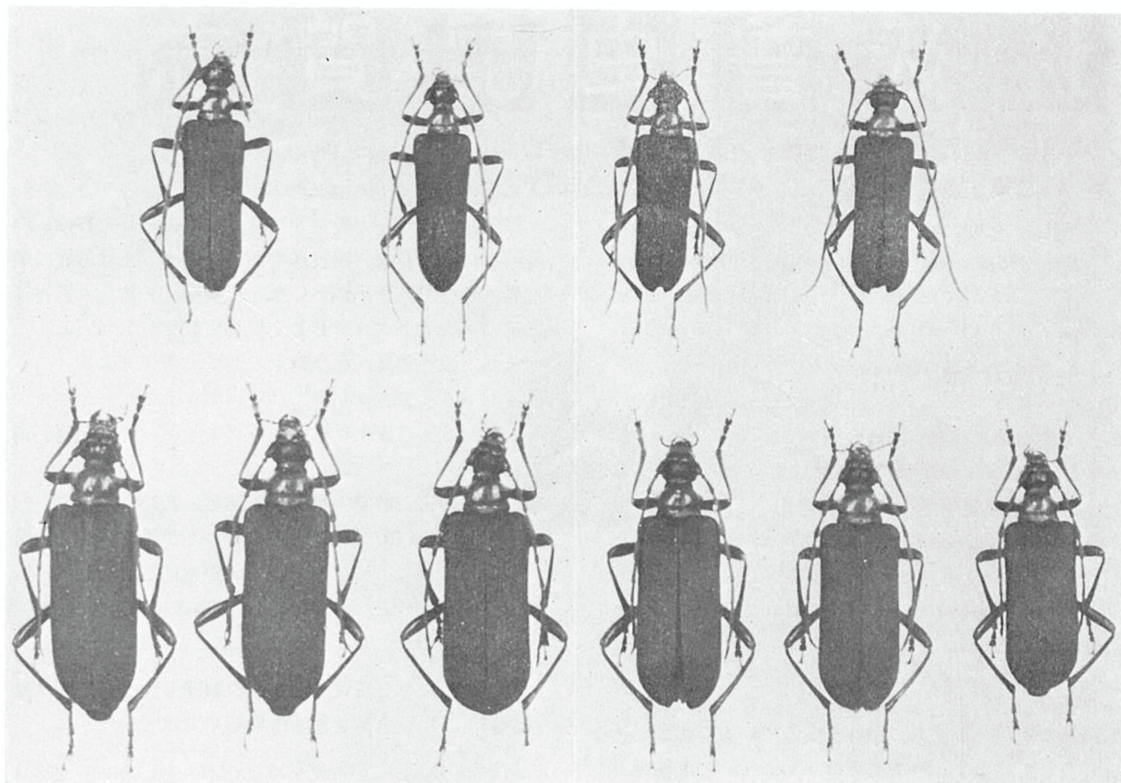
17～18. VII. 1976, 松井正通採集

♂は体長13.5～15mm, ♀は体長15～19mm。

採集する前日まで梅雨があけず不順な天候が続いていたが、当日は非常に好天に恵まれた。採集地の状況は植林されたカラマツ林の林縁で、シラカバが点在し、ススキ、イタドリ、ヤナギランなどが生えるどこにでも見られるような環境であった。

7月17日14時40分、最初の1頭がススキ葉上にゆっくりと飛来し、ぎこちなく動いて葉上に静止したが、飛翔中は一見ホタルカジョウカイボンの1種かのように見えた。日中はこの1頭を観察したのみで、他はすべて午後4時過ぎ、日が傾いて少し風が出てくるようになってから出現し、いずれもイタドリの葉上で触角を少し動かしながら長い間静止しており、不用意に手を出すと落下するものの素手で捕えることもたやすかった。イタドリの





アカムネハナカミキリ

上段：♂ 下段：♀

下部にとまることは少ないようで、いずれも上部の一番目につきやすい（飛来した時一番とまりやすい）部分の葉上に見られた。最後に採集したのは18時30分で、すでに暗くなりかけていた。夕方に多く見られたので薄明時に採集しやすい種かと思い、翌朝6時頃より付近を調べてみたがまったく見られず、8時過ぎ、気温がいくらか上昇してくるのが感じられるようになって始めて、1♂がイタドリの下部から茎を伝って上部へ移動してくるのを観察した。この♂は上部の葉までのぼってから触角を脚でこするようなしぐさをして、その後は体についた湿気を乾かすように陽光を浴びて長い間静止していた。この時はこの1頭しかみられず、やはり午後4時過ぎまで1頭も付近から発見できなかったが、夕刻には前日と同じくイタドリ葉上と付近の雑草の枯れ茎に静止している個体が見られた。

両日を通じ、付近の白色花を丹念に調べたが花からはまったく見い出せなかった。美ヶ原ではヤマボウシ、ノリウツギの花上から得られているので、訪花するものと予想していたが、セスジヒメハナ、ニンフハナ、ツヤケシハナその他ハナカミキリの普通種が多く見られただけなのは意外であった。以上のことからして、本種は一般のハナカミキリと比べ、何か生態的に異なっているよう

に思われ、今までの採集例の少ないのも単に発生する個体数が少ない？だけでなく、採集方法にも問題があるように思われる。成虫の日中の生態が判然としなかったのは残念だったが、本種がイタドリと何か密接な関係にあるように思え興味深い。

(〒386-11 上田市下ノ条1015-5)

### 波照間島のカミキリ

矢野 立志

1975年4月13～15日に八重山群島波照間島にて採集を行い、計14種のカミキリを得ることができた。従来、この島におけるカミキリの記録はほとんど知られていなかったようなので、採集品のリストを報告しておく。

#### 1. ヒゲナガヒメカミキリ

*Ceresium longicorne* PIC, 3 exs.

#### 2. リュウキュウヒメカミキリ<sup>2)</sup>

*Ceresium fuscum shirakii* HAYASHI, 2 exs.

#### 3. ムネモンアカネトラカミキリ

*Xylotrechus atronotatus gererosus*

MATSUSHITA 1 ex.

4. イシガキゴマフカミキリ<sup>1)</sup> <sup>2)</sup>  
*Mesosa yonaguni subkonoi* BREUNING, 19 exs.
5. サキシマウスアヤカミキリ  
*Bumetopia japonica ishigaki* HAYASHI, 11 exs.
6. アヤモンチビカミキリ<sup>2)</sup>  
*Sybra ordinata flavostrinata* HAYASHI, 18 exs.
7. アトモンチビカミキリ  
*Sybra baculina mimogeninata* BREUNING et  
OHBA YASHI, 36 exs.
8. タイワンチビカミキリ  
*Sybra pascoei ishigaki* BREUNING et  
OHBA YASHI, 1 ex.
9. フタホシサビカミキリ<sup>2)</sup>  
*Ropica dorsalis* SCHWARZER, 8 exs.
10. フタモンサビカミキリ  
*Ropica caenosa* (MATSUSHITA), 46 exs.
11. ヨスジシラホシサビカミキリ  
*Apomecyna histrio* (FABRICIUS), 1 ex.
12. タテスジドウボソカミキリ  
*Pothyne albolineata* MATSUSHITA, 6 exs.
13. ワモンサビカミキリ<sup>2)</sup>  
*Pterolophia annulata* (CHEVROLAT) 20 exs.
14. シモフリナガヒゲカミキリ  
*Xenolea asiatica* (PIC), 10 exs.

波照間島のイシガキゴマフは、今回得られた19exs.の範囲内では、石垣・西表島の個体に比べ、上翅斑紋の黄・黒色の色彩区分が細かいことで安定しており、宮古島北部のイシガキゴマフとよく似た斑紋を有している。

なお、波照間島からは以上の他に、ホソガタヒメ<sup>2)</sup>、ニッポンモモブトコバネ<sup>1)</sup>、ヤエヤマトラ<sup>2)</sup>、ヤエヤマフト<sup>2)</sup>、ムツボシシロ<sup>2)</sup>、モモブトゲバ<sup>2)</sup>の記録がある。

1) 柏井伸夫(1975): 月刊むし56号, P.13

2) 草間慶一(1973): 日本産カミキリの生態と分布一覧表, 新しい昆虫採集案内(3)  
(〒734 広島市皆実町1-18-40)

# 編集後記

今回は原著・短報共に中々充実しているのではないかと自負しています。特に郷氏の *Kurarua* の雌性単為生殖に関する論文。以前から予想はされていましたが、カミキリムシ科で単為生殖が確認された例は、世界でも他に知られていないものです。

この論文を編集集中、関係者の間では *Kurarua* 談議に花が咲きました。まず、台湾などの *Kurarua* には雌雄がいるのに、なぜ *rhopalophoroides* には雄がいないのか、ということ。これは同種が *Kurarua* 属の北限の種という点より説明する人が多いようでした。いわく、「ゾウムシでは、同一種でも生息する地域によって両性生殖(主に南方)か、または単為生殖(主に北方)、と異なった生殖を行なっている種がいる。*Kurarua* 属の北限にいる *rhopalophoroides* は氷河時代のきびしい条件を乗り越えるために、単為生殖に切りかえざるを得なかったのだ」というような説ですが、そんな話をしているうちに不気味な存在が1つ浮んできました。

それは西表島から採れているという *rhopalophoroides*。1964年3月2日、今から13年前の1例しかなく、その標本も日本にはない(Bishop Museumにあるという)、再確認が必要なものだったのですが、採集された当時、ちょうど同じ宿に泊っていて採集品を御覧になったという黒沢良彦博士のお話によれば、前胸は赤くなく *rhopalophoroides* とは違うもののようだったとのこと。もしかすると西表の *Kurarua* は別種、という可能性も考えられます。そして同種にせよ別種にせよ、本州

より南に位置する西表島(氷河の影響も少ない)には雌雄がいて、両性生殖を営んでいるのでは……

西表で *Kurarua* の雄が採れた!! というビックニュースがもたらされたのは、そんな折も折でした。西表島西北部の干立部落で、今春のある日の夕方、花をすくっていた琉大のカミキリ屋T君の、カミキリモドキしか入っていなかったはずのネットの底で動いていたのは、触角が体長とほぼ同長という *Kurarua* だったのです。その後に10数頭の雄と1頭の雌が採られたそうです。西表の *Kurarua* にはやはり雌雄がいたのです。はたして *rhopalophoroides* でしょうか、それとも別な種でしょうか。してその生態は……。 (1977年4月16日、藤田 宏)

## ELYTRA Vol. 5, No. 1

昭和52年7月5日 印刷

昭和52年7月10日 発行

編集者 藤田 宏

発行者 草間 慶一

発行所 日本鞘翅目学会

Japanese Society  
of Coleopterology

東京都台東区東上野4-26-8

福田惣一方(〒110)

c/o, FUKUDA, 4-26-8,  
Higashi-Ueno, Taitō-ku,  
Tōkyō-city, Japan

印刷 皓大和印刷



株式会社

# 志賀昆虫普及社

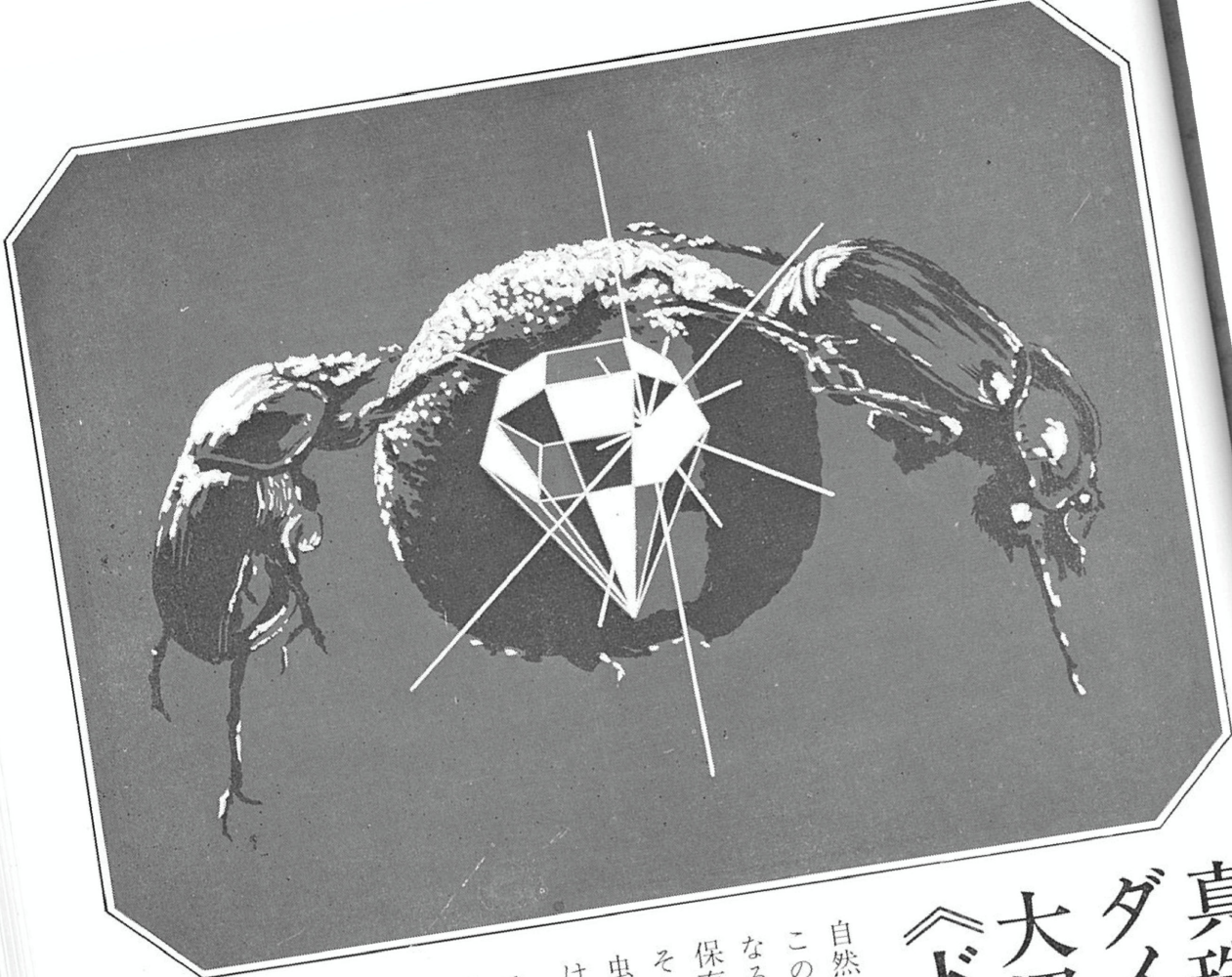
〒110 東京都渋谷区渋谷1丁目7番6号(宮益坂上)  
TEL. 03(409)6401(代) 振替/東京21129



- 新製品/最上質ステンレス製シガ有頭昆虫針  
0. 1. 2. 3. 4. 5号発売中
- 専門用カタログあり 要郵券 140円
- 営業種目 採集瓶・採集箱・幼虫飼育・採集バンド・展翅板類・  
飼育用具・顕微鏡・標本箱各種・三角ケース・捕虫網・標本瓶・植  
物採集用具・殺虫管・プレパラート製作用具・名箋・ピンセット・  
平均台・液浸用管瓶・ルーペ類・コルク類・その他

営業時間：9時～18時  
休日：毎週日曜、祝祭日、10月1日





# 真珠より美しく ダイヤより価値がある 大切な標本を永久に守る 《ドイツ型標本箱》

自然はますます大切なものとなってきました。  
この不思議な世界を解明する貴重な手掛りと  
なる昆虫標本は、価値あるものとして永久に  
保存したいものです。  
そんな願いをこめて、タツミ製作所では、昆  
虫標本の保存に最適なドイツ型標本箱をお届  
けします。

## \*すばらしい特長

- くるいのこない良質な木材を使用
- 湿気や乾燥にも強い独特の構造
- パラゾールにも変化せず、標本がより美しく見え  
る白色プラスチック底

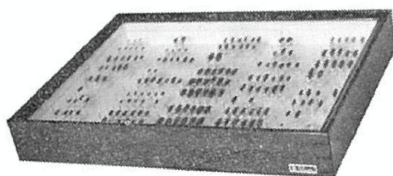
●高級ニス塗装の丈夫で美しい仕上げ

※標本箱のほか、展翅板など昆虫標本作成に必要な器材もあります。

※昆虫器材カタログ、昆虫関係輸入図書・委託図書リストもあり。

〒113 東京都文京区湯島二丁目二五  
郵便振替 東京一三三七九

(有)タツミ製作所



大型  
4,500円(送料別)

中型  
4,000円(送料別)

この価格は昭和51年4月現在のものです



## 日本鞘翅目学会会則

1. 会 名：本会は日本鞘翅目学会〔The Japanese Society of Coleopterology〕と称する。
2. 目 的：本会は甲虫研究の進展を計り、あわせて甲虫研究者相互の親睦を深めることを目的とする。
3. 総 会：年1回の総会を開くものとする。
4. 活 動：本会は次の活動を行なう。
  - a. 機関誌「ELYTRA」の発行。
  - b. 第2会誌「さやばね」の発行。
  - c. その他、甲虫に関する臨時出版物の発行。
  - d. 年1回の総会。
  - e. その他、必要と思われる一切の活動。
5. 会 員：本会の会員は正会員・維持会員および特別会員からなり、正会員・維持会員は所定の会費を納めるものとする。
6. 役 員：本会には会長ならびに若干名の役員をおくものとする。
7. 会 計：会計年度は1ヵ年とし、会計報告を行なう。
8. 入 会：本会に入会を希望するものは、指定の会員カードに住所・氏名等を記入し、入会金に1年分以上の会費を添え、事務局に申し込むものとする。
9. 会則の変更：上記会則の変更は総会にて承認される。

## 細 則

- A. 役員は当分の間、下記とする。役員は年2回行なわれる ELYTRA 掲載の原著論文の審査、および会務の決定・運営にあたる。

草間慶一（会長）、衣笠恵士（副会長）、露木繁雄、小宮次郎、中村俊彦、  
福田惣一、大木 裕、高桑正敏、藤田 宏

- B. 入会金および年会費は下記とする。（前納）

	1974～1976年度	1977年度以降	
入 会 金	500	500	注1) 入会金は入会の年次のみ必要。
正 会 員	2,000	一 般 3,000	注2) 維持会員は一口につき ¥5,000
年度費		大学生および大学受験生 2,000	で、会誌は2部ずつ送付される。
		中・高校生 1,000	注3) バックナンバーの誌代は年会費
維持会員	5,000	5,000	の金額に準ずる。

- C. 本会の事務局および編集局は当分の間、下記とする。

○事務局（入会の申し込み、会費の納入、バックナンバーの申し込み、その他事務一切）

〒110 台東区東上野4-26-8 福田惣一方

○編集局（投稿および投稿に関する問い合わせなど、編集関係一切）

〒110 台東区台東2-29-6 藤田 宏方

The ELYTRA welcomes original articles dealing with various aspects of Coleopterology. The bulletin is published semiannually by the Japan Society of Coleopterology. We are willing to exchange with any publication relating to the research and description of Coleoptera.

## Japanese Society of Coleopterology

Keiichi KUSAMA, president

Jiro KOMIYA,

Hiroshi OKI,

Keiji KINUGASA, vice-president

Toshihiko NAKAMURA,

Masatoshi TAKAKUWA,

Shigeo TSUYUKI,

Sôichi FUKUDA,

Hiroshi FUJITA, editors.

All inquiries concerning the ELYTRA should be addressed to: Sôichi FUKUDA c/o, 4 chome. 26-8, Higashi-ueno, Taito-ku, Tokyo, 110, Japan.



原著

- 益本仁雄 (MASUMOTO, K.): 台湾産食糞コガネムシ解説〔4〕  
(A Revision of the Coprophagid-beetles from Formosa〔4〕)..... 1
- 大平仁雄 (ÔHIRA, H.): 硫黄島から採集された2種のコメツキムシ  
(Two Elaterid-species Collected from Iwo I. in Micronesia (Coleoptera: Elateridae) ..... 7
- 高桑正敏 (TAKAKUWA, M.): 琉球産オビハナノミ属の1新種  
(A New Species of the Genus *Glipa* LECONTE from the Ryukyu Islands (Mordellidae) ...9
- 草間慶一・露木繁雄 (KUSAMA, K. & TSUYUKI, S.): 中硫黄島(火山列島)より未記録の  
カミキリ3種について  
(Three Unrecorded Longicorn Beetles from Naka-Iwojima Island (Volcano Islands).....12
- 郷 遠 (GOH, T.): クビアカモモブトホソカミキリの雌性単為生殖についての研究  
(A Study on Thelytokous Parthenogenesis of *Kurarua rhopalopholoides* HAYASHI  
(Coleoptera, Cerambycidae)) .....13
- 草間慶一 (KUSAMA, K.): 小笠原諸島よりの美しいトラカミキリ族の1新種について  
(Description of a Beautiful New Species of Clytini from the Bonin Islands (Cerambycidae) ...17
- 今坂 正一: コナガキマワリの記録.....18
- 高桑 正敏: 屋久島のキンオビハナノミの記録.....18
- 田村 隆宏: ツシマムツボシタマムシ宮城県に産す.....19
- 森島 直哉: 白紋のあるヤニヤマフトカミキリ.....19
- 藤田 宏: 小笠原 隆: 三宅島5月上旬のカミキリ.....19
- 松井 正通: アカムネハナカミキリの新産地ならびに成虫の生態に関する知見.....20
- 矢野 立志: 波照間島のカミキリ.....21

- 草間 慶一: 1951年以降の台湾産カミキリの文献(1) .....11

- 編集後記.....22